

【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



学校だより 堂崎つ子

第 11 号

令和 8 年 8 月 21 日

南島原市立堂崎小学校

校 長 末吉 優

夏休みに入り、ほとんど雨が降らず、連日猛暑が続いている中、農作物の生育が心配されます。また、7月28日の熊本を震源とした地震により、本市でも震度5強の揺れがありました。いつどこで起こるか分からない地震の怖さを感じた次第です。犠牲になられた方々の冥福を祈るとともに、被災者の方々にお見舞い申し上げます。

平和集会 校長講話（抜粋）

場所を体育館から音楽室へ変更して実施しました。

81年前の1945年8月9日に、長崎市に原子爆弾が投下された。その結果、一度に約7万4千人の人が亡くなり、さらに多くの人が放射能や火傷（やけど）などで苦しんだ。その後も、原爆症という病気で亡くなった人は数えきれない。



今年の8月9日は日曜日であるが、長崎県内の学校は登校日で、県内各学校で平和集会を行った。今年は4年生の長崎への平和学習はないが、来年、今の4年生と3年生で原爆資料館、爆心地公園、平和公園を見学し、平和学習を行う予定である。今年は、4年生が自分たちで調べたことを発表することになった。

4年生の発表を見聞きし、全校で「この時代に」を歌い、たてわり班で折り鶴を折り、各学級でDVDを見るなどの様々な学びを通して、平和って何だろうと考えてきたと思う。

世界には、戦争や争いごとがこれまで以上に起こっている。なぜ、争いがあると思うか？ それらは、相手の気持ちを十分考えない自分中心の考え方、ルールを守らない身勝手な行動によるものである。私たちの日常生活・学校生活に「相手の気持ちを考えない自分中心の考え方、ルールを守らない身勝手な行動」はないだろうか。注意を受けると、残念なことに「自分は悪くない、相手がこんなことをした、言った。」などの言い訳をするようなことをたびたび、見聞きする。平和な世界を願うのであれば、

- ① SNSを含めて、いじわる、悪口、相手の気持ちを傷つける言葉遣いをなくし、友達と仲良くすること、
- ② 違う意見や考え方をもつ人を尊重すること、
- ③ 困っている人や弱い立場の人を助けること、
- ④ 自分の感情や思いを素直に伝えることが必要である。

私たちは一人一人が平和をつくる人である。今日は、原爆投下から81年目の8月9日。この日を忘れずに記憶していこう。そして、「SNSを含めて、いじわる、悪口、相手の気持ちを傷つける言葉遣いをなくし、友達と仲良くすること」を、ただ言葉で言うだけでなく、行動に移し、「平和」のおおもとになる「私たちの心のねっこ」を育てていこう。

社会を明るくする運動「中学生弁論大会」 【ありえコレジヨホール 7月28日（火）】

市内8つの中学校から2名ずつ出場した中学生弁論大会。

安易な気持ちから関わったヤミバイトなどの社会情勢に目を向けた発表や、体験をとおして「人は支えられている」などと自分の言葉で表現していたのが印象的でした。

最優秀賞に輝いた中学生の発表は、「苦しんでいる人に必要なのは、悩んでいることに気付いて『大丈夫？』と声をかけてくれる存在が大切。助けてと言えずに苦しんでいる人に気付き、行動できる人になりたい。」という発表内容でした。

発表者からは、困っている人に耳を傾ける、偏見をもたずに接していく、社会をよりよくしたい等の強い思いが伝わりました。



みなさんは、テレビ等でおなじみの「劇団ひとりさん」を御存知かと思います。講師の川島育子さんは、「劇団ひとりさん」のお母様であり、「ハッピー子育て術」として御講演いただきました。講演の中に「劇団ひとりさん」を育てるにあたり、様々な経験、親子としての双方の関わりなど、共感を抱くようなことについてお話しになりました。一部ですが、御紹介します。



<家庭教育講演会チラシより>

①食育を大切にしよう。(食事と睡眠が基盤)

☐ 食習慣を意識する。

決まった時間、温かい物を温かくして食べる。

→ 体内時計を整える。情緒的に安定する。

☐ 楽しく食べる。(おふくろの味。お母さんの味)

家族が食卓を囲む。同じ時間同じ食べ物を食べる。

(→ 連帯感。安心感。きずな。)

☐ 人の声を聞くと安心感を抱く。心が安定する。

☐ 社会性を育む。(会話のきっかけ、コミュニケーションのきっかけは挨拶。)

家庭とは、社会の縮図。社会性を身に付ける機会。(食事の挨拶 → 作ってくれた人と食への感謝)

☐ 心理学者：マズローの5つの欲求について紹介。(たびたび取り上げられた。)

「①生理的欲求 → ②安全欲求 → ③所属・愛情欲求 → ④承認欲求 → ⑤自己実現欲求」

(つまり、①「生きる → ②守る → ③仲間 → ④認められる → ⑤自分らしく実現する」)

②感受性の手入れをしよう。(感受性 → 察知力、気遣い) 大人は頭で考える。

☐ 雪国：雪が溶けると何になる？ 子供 → 春になる。大人 → 水になる。

☐ 食べ物おいしい。子供 → お口が喜んでいる。大人 → そうですね。おいしくない食べないですね。

☐ ピアニスト：辻井伸行さんの母 → 母親の観察力・察知力

☐ 心理学者レビン：行動とは本人の資質と環境である。

・子供はよくまねをする。子はよく見ている。(子供が足でドアを閉める例から)

・挨拶の例(自分からきちんと挨拶をする子。こちらから挨拶すると挨拶を返す子。挨拶しても挨拶しない子)

・親の働く姿を見て。母に向かう心。感性・感受性を養う。

③笑顔で接しよう。

☐ 視線を通してコミュニケーション。目は全体の52%を占める。第一印象は目から入る。

☐ 表情で伝わる。(6つの基本感情：①怒り、②嫌悪、③恐怖、④喜び、⑤悲しみ、⑥驚き)

→ 感情の理解とコミュニケーションにおいて重要な役割を果たしている。

・脳はつくり笑顔でもリラックスする。活性化する。

・赤ちゃんの笑顔 → 自分も笑顔になる。・笑顔で人生を変えることもある。

④感情交流の言葉を大切にしよう。

☐ お母さんの一番多い言葉 → 「早く～しなさい。」(役割言葉しか使わない。指示されている。)

☐ 相手の様子を押し進める：「失礼ですが」。「申し訳ありませんが」。感謝の言葉。有り難い。

☐ 小さな褒め言葉 → 安心感と自身につながる。承認の欲求が認められる。

感情の交流になる。感情の架け橋。

⑤よい聞き手になろう。

☐ 相づちを打つ。良い聞き手。その人に意識を傾けて聞く。傾聴すると、内容に気付く。

☐ 鳥濱トメさんの心遣い(多くの特攻隊員のお世話をしていたことから「特攻の母」と呼ばれた。隊員らをわが子のように慈しみ、私財を投げ打ってまでも親身に接した。)

☐ 一期一会・・・子供と接する時間。二度と帰ってこない。一期一会の時間として。

劇団ひとりさんの独特な才能は、母親である川島さんの愛情と理解があったからこそ発揮されているのではないかと思います。

